



子ども村：ユニバーサルステーション 便り①

【地域の多世代の人々との交流のなかで不登校の子どもたちの成長を育む】

「町屋2丁目の都電電停前のマンション2階の窓に、”ホッとステーション”の文字が見えます。」

ここは、毎週月・水・木曜日の午前10時～午後2時、子どもから高齢者までが交流する地域の居場所「子ども村：ユニバーサルステーション」です。

「繋がりのできる地域の居場所」

子ども村：ユニバーサルステーションは子どもたちにとっては、学校や家庭以外の地域の居場所です。また、子どもたちと共に過ごす20代から80代までの方々にも、お互い様の繋がりのできる地域の居場所となっています。子どもたちは、一緒に学習をしたり、音楽、ボードゲームや卓球、こぼん作り、漫画、読書など自分でやりたいことを

自分で決めてそれぞれが自由に過ごしています。大人の皆さんは食事づくり、片付け、消毒、清掃などできることを行っている方もいれば、子どもたちと一緒にボードゲームをしたり、お話の聴き役になっている方もいます。また、特



技の囲碁、書道、手芸、お茶などを教えあつたり、また若者からスマホの使い方を教えてもらったりと緩やかなお互い様の繋がりを作つ

ています。

「温かい支援が温かな食事を提供します。」

昼食は、大人200円、子ども100円。こんな安価で提供できるのは、活動を応援してくれる地域の方々、企業、団体から

のお米、野菜、調味料、飲料、アイスクリーム、乾麺などたくさん食材提供の支援があるからです。これらの食材には、子どもたちの成長を応援



したいという暖かなメッセージが込められています。スタッフとボランティアさんたちによる手作りの温かな食事は同じ釜の飯を食する仲で生まれる”絆”を作り出しています。

【ひと昔前の路地裏のような多世代の居場所をめざして】

かつては、路地裏で縁台に座る大人たちが遊んでいる子どもたちを見守っていました。子どもが悪いことや危険なことをすると叱つたり、ごはんを食べていない子どもがいるとおせっかいなおばさんたちが、自宅でごはんを食べさせる「子ども食堂」のようなことを行っていました。

しかし、時代の変化と共に住宅環境は変わり、地域と繋がりを持たず個々の暮らしを大事にするようになり、近所の暮らしが見えにくくなりました。子どもたちは、学校から家にまっすぐ帰って塾に行くというスケジュールもたちちを見るのができなくなりました。また、コロナ感染の拡大により、追い打ちをかけてように、ますます家に籠る暮らしが続いています。近所の子どもの様子や家族のSOSも見えにくいために気づくことができず、お

せつかいをしたくてもできなくなっています。

だからこそ、多世代が集いつながりあう居場所が、路地裏にあったおせっかいの支え合いを作り出していくのではな

いかと思うのです。今年4月、ユニバーサルステーションに参加していた中学3年生は、夜間高校に入学し、新たな学校生活に踏み出しました。そして、小学生も



自ら学校に行くという選択し元気に学校に通っています。学校に居場所のなかった子どもがユニバーサルステーションという居場所から巣立ち、学校に居場所ができたのです。

子ども村ホッとステーションの2021年度の活動をまとめ報告書を作成いたしました。様々な世代が、ごちゃ混ぜな世代が、一緒に空間を作り、一緒にごはんを食べて「お互い様」の繋がりを作っている様子を紹介しています。ぜひ、読んで頂きたいです。

また、猛暑が続く今、涼んで心温まる避暑地としていらっしゃいませんか。ボランティアとして参加したい、見学してみたい、参加してみたい、活動報告書がほしいという方は一般社団法人 子ども村ホッとステーションへ

